



砥川用水の水源となる「そうめん滝」

## 益城の文化財

# とがわ よう すい 砥川用水と とみ た も しち 富田茂七顕彰碑

## その1

### －砥川－

飯野小学校から北へ200mほどの県道(岩戸川)沿いに大きな石碑が建っています。

碑上部の題額「既澤」の大きな2文字は熊本の政治家、清浦奎吾(第23代内閣総理大臣1924年1月～6月)が書き、その下に富田茂七の功績を後世に伝えるための碑文が750程の漢字で彫られています。これは、漢学者が砥川村水道記として書いたものです。

顕彰碑は用水路が完成した約124年後の大正14年に村人がお金を出し合って建てられました。

江戸時代の砥川地区は水利の便が悪く、多くはため池に依存するもので、日照りが続くとひどい干害となつて米もとれず、受け持つ地主もなく他の村に出かせぎに行くなど村を離れる人も多くいたそうです。

この貧しい村を何とかしたいと心に念じていた下砥川の庄屋、富田茂七は東に約2km離れた豊富な湧水を水源とする「そうめん滝」の水を引くことを思い浮かべました。

上砥川・中砥川庄屋の賛同を得、惣庄屋に願い出て、許可が下りた寛政4年(1792)、船野山のふもとを巡り中砥川に至る3,350mに及ぶ用水路の工事に取かかりました。

工事は、水源が低いため水かさを上げるための大きなため池を作ったり、傾斜が急なところは水路の底面に石を敷き、両側は石垣にする板石のつぎ目には漆喰をして漏水を防ぐなどあらゆる工夫をしましたが困難を極め一度は失敗しました。

次号へ続く

参考文献『益城町史 通史編』  
益城町文化財保護委員会

## 俳句

早川宏次 選

木槿花汝の生地も南北に

惣領 小森英美子

庭先のタライにひたる土用干し

木山 増岡 伸禧

古代米歴史彩る稲穂かな

惣領 阪口由美子

そよ風やおいでおいでと猫ぢやらし

木山 山口サツキ

竹つなぎそうめん流しの賑やかさ

広崎 松原まゆみ

落鮎のヤナに舞いしや銀鱗の

惣領 阪口 基明

朝露のこぼれし庭に虫の声

寺迫 藤田 光子

夏雲も去りて初秋のサンセット

惣領 新居 露子

## 狂句

田上富岳 選

出し惜しみ 見ればたいした品じゃ無か

宮園 永瀬 美波

出し惜しみ 女房の財布頑なに

下陳 山田 凡骨

出し惜しみ 相手見てかる言いなっせ

宮園 井藤 吉郎

出し惜しみ 寄付聞くだけで鍵をかけ

惣領 阪口 基明

出し惜しみ 賞味すごしてゴミと化し

木山 増岡 酔粋

出したし 持つとる人はつまらしか

宮園 岩本ようこ

待ったなし 次から次に金の要る

広崎 松原まゆみ

待ったなし 悠長な事つうとれん

宮園 岩本ようこ

待ったなし 免許期限が今日切れる

宮園 永瀬 美波

待ったなし 勝負の駒は握りしめ

惣領 阪口 基明

狂句次号の課題 「ひよつとすると」色づき始め

投稿は役場広報係まで。

投稿締切日は毎月15日です(当日必着)。

※数種に投稿される場合は、別にお送りください。